# 荒川河川敷　－　四季の蝶

板橋区の蝶を調査する会

１．春（3 月～4 月）

３月になると荒川河川敷の土手にはタンポポ、ヒメオドリコソウ、シロツメクサ、ムラサキツメクサ、ホトケノザ、菜の花が一斉に開花します。春の河川敷は多くの種類の蝶が舞い始めます。モンキチョウは 2 月の上旬から飛び始めていますが、3 月にはその数が一気に増えます。タンポポ、菜の花を良く訪れます。

ホトケノザ
（ヒメアカタテハ）

ヒメオドリコソウ
（ヤマトシジミ）

シロツメクサ
（ヒメアカタテハ）

タンポポ
（ギンイチモンジセセリ）

ナノハナ
（モンキチョウ）

アゲハチョウ科では先ずナミアゲハ、キアゲハが姿を見せます。ナミアゲハやキアゲハの春型は夏型に比べると小型ですが、色彩が鮮やかです。菜の花、ムラサキツメクサ、タンポポを訪れます。

モンシロチョウも良く見かけますが、河川敷という環境ではモンキチョウの方を良く見かけます。キタキチョウは黄色の翅（はね）で、モンキチョウと似ていますが、飛び方が違います。モンキチョウは素早く流れるように飛びますが、キタキチョウは少しフラフラと飛びます。ツマキチョウは遠目にはモンシロチョウと良く似ていますが、飛び方はモンシロチョウがつんのめる様に早く飛ぶのに対して、ツマキチョウは直線的にややゆっくりした飛び方をします。

ムラサキツメクサ
（キアゲハ）

ナノハナ
（ナミアゲハ）

タンポポ
（ツマキチョウ）

タテハチョウ科では越冬したキタテハとヒメアカタテハを先ず見かけます。良く見ると翅が破れていたり、鱗粉（りんぷん）が擦（す）れたりしています。暖かい日に枯れ草の上に止まっていたり、タンポポ、ホトケノザ、菜の花を訪れたりします。4 月半ばにはヒメウラナミジャノメを見ることができます。イネ科の植物が生えている場所で、葉と葉の間を摺（す）り抜ける様に飛んでいます。

（ヒメウラナミジャノメ）

（ベニシジミ）

ナノハナ

（ルリシジミ）

シジミチョウ科では先ずベニシジミが、次いでルリシジミが現れます。ベニシジミは名前の通り前翅（ぜんし）の紅色の地に黒色の斑点が良く目立ちます。枯れ草や葉の上に止まっているのを良く見かけます。春と夏で翅（はね）の模様が違っています。ルリシジミは♂の翅（はね）の表が鮮やかな水色で、裏は少し青っぽい白。小型ですが良く目立ちます。ヤマトシジミは河川敷に限らず、市街地でも普通に見かける蝶です。♂の翅（はね）の表はくすんだ水色で、翅の裏はベージュの地に黒色の斑紋（はんもん）があります。

セセリチョウ科ではギンイチモンジセセリとミヤマチャバネセセリが先ず現れます。ギンイチモンジセセリはススキや葦（あし）の生えている茂みから時々外に出てきては、直ぐに茂みの中に入り込んでしまいます。翅（はね）の表は焦げ茶色で、小さな蝶ですから、たちまち見失ってしまいます。翅（はね）の裏の銀色の筋が鮮やかです。春と夏では翅（はね）の裏の色が違っています。ミヤマチャバネセセリはムラサキツメクサ等の花を訪れたり、枯れ草や葉の上に止まっていることがあります。イチモンジセセリやチャバネセセリと同じような色合いですが、後翅（こうし）の裏の焦げ茶色の地の中央に大きな白班（はくもん）が目立ちます。

（ミヤマチャバネセセリ）

（ギンイチモンジセセリ）

２．夏（5 月～8 月）

5 月は初夏の季節ですが、河川敷では一足早く真夏の季節の到来です。土手や草原は緑に埋まっています。点々と生える柳の大木の下以外は、太陽の光でジリジリと熱せられ、熱気が漂っている様です。

ナミアゲハやアオスジアゲハは地面に止まり頻（しき）りに吸水しています。モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウは草の葉に止まってあまり動きません。柳の大木を見ていると中型の蝶が柳の周りを飛んでいるのを見ることがあります。これはコムラサキです。オレンジの地に筋が何本か通り、♂でしたら翅の表の中央部分が紫色に光って見えます。ツマグロヒョウモンやコミスジが草原を飛んでいるのを良く見かけるようになります。ツマグロヒョウモンの♀は大型で前翅（ぜんし）の端が黒地で白の斑紋（はんもん）が入っています。アカボシゴマダラを偶（たま）に見かけることがあります。ヤマトシジミ、ベニシジミ、ルリシジミ、ツバメシジミは春に引き続き見ることができます。良く見るとベニシジミの斑紋（はんもん）が、春に見たベニシジミと違っています。前翅（ぜんし）の表の紅色の部分が小さくなって黒っぽく見えます。

ムラサキツメクサ
（ベニシジミ）

ヤナギ
（コムラサキ）

シロツメクサ
（ツマグロヒョウモン）

クズの葉
（コミスジ）

（アカボシゴマダラ春型）

夏になるとセセリチョウの種類が増えて来ます。ギンイチモンジセセリ、ミヤマチャバネセセリに加えてイチモンジセセリ、チャバネセセリが現れます。何れも小型で焦げ茶色の目立たない蝶ですが、ムラサキツメクサやシロツメクサの花にやって来ます。でも１箇所にじっとしていることは無く、あっという間に他の場所、花に移動してしまいます。河川敷はセセリチョウの宝庫です。

タンポポ
（ミヤマチャバネセセリ）

（イチモンジセセリ）

ムラサキツメクサ
（チャバネセセリ）

３．秋（9 月～11 月）

9 月に入っても河川敷の暑さは衰えません。観察していると熱気に包まれ、大木の下に逃げ込むことになります。木々は夏の緑の濃さが少し失われ、草原や土手の緑の中に枯れ草も少し混じるようになります。この頃になると花の種類も減ってきます。セイタカアワダチソウ、アメリカセンダングサ、アキノノゲシが目立つようになります。

アメリカセンダングサ
（イチモンジセセリ）

アキノノゲシ
（ヒメアカタテハ）

セイタカアワダチソウ
（アオスジアゲハ）

タンポポ
（キタテハ）

ムラサキツメクサ
（ジャコウアゲハ）

アオスジアゲハがセイタカアワダチソウの花に来るのを時々見かけます。ジャコウアゲハは未だ元気に飛んでいます。モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウがアメリカセンダングサの花に止まっているのを良く見かけます。キタテハ、ヒメアカタテハ、ツマグロヒョウモンもセイタカアワダチソウの花を訪れます。

秋になるとウラナミシジミが現れます。河川敷にはクズが茂っている場所が多く、幼虫がクズを食べるウラナミシジミには格好の繁殖地です。遅いものは 12 月初めまで飛んでいますが、真冬には居なくなり、又翌年の 9 月まで待たなければなりません。ウラギンシジミの幼虫もクズを食べるので見ることが出来ます。ヤマトシジミ、ベニシジミ、ツバメシジミも未だ飛んでいます。

秋はセセリチョウをたくさん見ることができる時期です。イチモンジセセリ、チャバネセセリ、は土手や草原のあちこちで見ることができます。9 月の初めであればギンイチモンジセセリも見る機会はあります。稀にはオオチャバネセセリも見ることがあります。

シロツメクサ

アメリカセンダングサ

ササ

（ウラナミシジミ）　　（チャバネセセリ）　　（ウラギンシジミ）

冬（12 月～2 月）

12 月に入ると、さすがに朝晩の冷え込みは厳しくなります。それでも日中の河川敷は少し汗ばむ程気温が上がります。花は極めて少なくなり、タンポポ、ホトケノザ、ムラサキツメクサが僅かながら花を付けています。そんな中、アメリカセンダングサは元気で、小さな黄色い花をつけています。モンキチョウ、キタキチョウ、ヒメアカタテハ、キタテハが良く訪れています。ウラナミシジミも見られます。

1～2 月は、木立はすっかり葉を落とし、草原は枯れてうす茶色となっています。晴れて、少し暖かな日には、未だ残っているアメリカセンダングサの花にモンキチョウ、ヒメアカタテハを見ることができます。

アメリカセンダングサ
（ウラナミシジミ）

ホトケノザ
（キタキチョウ）

ホトケノザ
（ヒメアカタテハ）

以上